



# 地域の活動に楽しみをプラス して続けたい活動に

## Profile せき・ともり

昭和 35 年生まれ、62 歳。上松山町在住。会社員として仕事をしながら上松山里山保全隊の活動に取り組む。趣味は楽しいことを見つけること。楽しい、面白いと思ったらなんでも趣味にしまい、バイクや機械いじり、魚釣りをはじめ、保全隊の活動を始めてから免許を取得したユンボやフォークリフト、ドローンなども趣味に加わったという。大事にしている言葉は「志あるとことに道は開ける」

「迷ったら一歩前進。やってみると分かんない。どかんしようか、て尻込みしとつてもなんも変わらんけんですね。一歩踏み出すと道が開けるかもしれない。そういう気持ちで日々活動しています。」上松山保全隊の活動として、イノシシの狩猟や荒れた土地の整備などに取り組んでいる関さん。「誰かがせんなら、俺がする。」イノシシの狩猟免許を取得して、2 年半で 104 匹を捕獲した。以前は五色山を歩いた人から、「おい、あそこでイノシシ見たぞ。」と言われていたのが「最近イノシシは見らんね。」に変わった。この言葉を聞くと、少しは地元貢献できたと感じて嬉しくなるという。

関さんは、普段からどんな活動も「常に楽しむこと」を大切にしている。活動の中に楽しみを見出すのだ。「狩猟でも草刈りでも、『作業』だったら誰でも嫌でしょ。でも活動の中やその先に『楽しみ』があったら時間を忘れて熱中するし、ストレスも溜まらないですよ。」イノシシの罠に細工を加えたり、餌に旬の食べ物混ぜたりと、思考錯誤を楽しみながら活動する。地域の活動でも同様に楽しみを求め、周りにも楽しんで活動して欲しいと考える。ただ「草刈りに来て」と言うのではなく、「こういう場所を作りたいから手伝って欲しい」と目的を伝えることで、整備したその先に楽しみが待っているから活動に参加してもらえるのだという。さらに、次も参加したいと思ってもらえるように活動の中に楽しみを増やしていきたいと語る。

「志あるところに道は開ける」関さんの活動の根本にある言葉だ。関さんの中の「志」は「楽しむこと」。自分の活動も地域の活動も全部「楽しむ」という強い意思を持つことで、活動が苦にならないし、続けられる。「上松山区には、それぞれに志を持って活動していて、尊敬できる人がたくさんいる。そういう人の手伝いをしたいと思うし、自分もそうなりたいと思っています。」と話す関さんの今後の活動が楽しみです。

### 「宇土人」希望者を募集します

新しいことに挑戦している人、伝統を受け継いでいる人、宇土で頑張っている人を募集します。本市在住であれば自薦・他薦は問いません。詳しくは、まちづくり推進課までお問い合わせください。

☎まちづくり推進課 情報支援係  
☎(22) 1111 (内線 811)



## 上松山里山保全隊 関 知徳 さん



- 1\_上松山里山保全隊のユンボを操作する関さん。保全隊の活動のために免許を取得した。
- 2\_保全活動で排出された木材を使ってベンチを作り、山道に設置するなど、SDGsにも取り組む。
- 3\_ドローンで撮影した五色山の映像はYouTubeにもアップしている。